CSR REPORT 2016

MITSUI KINZOKU

Contents

03 **この報告書をお読みいただくにあたって**

Message from top management
04 **私たちのできること、私たちだからできることを。**

Our approach to CSR
06 **私たちのCSRの考え方**

CSR promotion system
08 **CSR取り組みの加速**
中核課題を基として
まずはCSR経営の基盤強化

Corporate governance
10 **信頼される企業であり続けるために**
ガバナンスの基本的な考え方
取締役と業務執行
監査役と監査役会
会計監査人
内部統制機能の強化

Highest priority on compliance
12 **コンプライアンスは、フェアプレイ**
コンプライアンスの実践と強化
コンプライアンス研修
法務監査の実施
三井金属ホットライン

Respect for human rights
14 **人権の尊重**
良好な労使関係の維持
人権に関する課題とこれからの取り組み
女性が活躍できる職場を目指して
紛争鉱物問題への取り組み
機能粉事業部における紛争鉱物への対応

Work-life balance and diversity promotion
16 **一人ひとりの能力を活かすために**
育児・介護と仕事との両立支援
ベテラン社員の活躍
障がい者の雇用
従業員支援プログラムおよびストレスチェック制度の活用
人材育成に対する考え方
教育と研修の体系
社内公募制度
自己申告

Commitment to worksite safety
18 **職場の安全を守る**
労働安全衛生のマネジメント
2015年の安全衛生実績

Environmental Management
20 **環境に負荷をかけないために**
環境と事業の持続を願い
環境管理の組織体制
厳格な環境監査の実施
環境教育
環境管理のための投資と経費
廃棄物削減の取り組み
化学物質の排出量削減

Reducing our energy and GHG emissions
24 **地球温暖化防止への取り組み**
消費エネルギー削減とCO_2排出量削減
再生可能エネルギーの創出
製錬事業における環境負荷の全体像
物流におけるエネルギーの削減
Message from Chief Environmental and Safety Officer

Environmental preservation in mining
28 **自然環境の保全のために**
休廃止鉱山の管理
鉱山と、町とともに生きる
ワンサラ鉱山における環境対策
地域社会への支援

Responsible supply chain
30 **ビジネスパートナーとともに**
ビジネスパートナーとの取り組みを加速
公平・公正な取引のために
三井金属アクトにおける取り組み

Quality assurance from the customer's perspective
32 **品質保証と向上への取り組み**
品質に対する基本的な考え方
品質保証を支える仕組み
品質マネジメントシステムの構築

Contributing to communities
34 **地域に根ざした活動こそが**

Taking advantage of our technologies
36 **宇宙線研究 最先端の山**
2度目のノーベル物理学賞受賞
さらなる科学の進展とともに

Communication with stakeholders
38 **ステークホルダーの皆様との関わり**
スムーズな対話の仕組みを

39 **Corporate profile and consolidated data**

この報告書をお読みいただくにあたって

この報告書は、三井金属が刊行する初めての「CSR報告書」です。
私たち三井金属では、2003年から「環境報告書」を刊行し、
事業活動に伴う環境と安全への取り組みを中心に情報開示に努めてまいりました。
事業活動を通じて社会的責任を果たすという認識を持ちながら、
それぞれの事業に取り組んではまいりましたが、社会活動、経済活動、
さらにはマネジメントに関する情報の発信が不足していたという
深い反省のもと、本年2016年、CSR取り組みの体制を構築いたしましたのに伴い、
これまでの環境報告書に代えて、このCSR報告書を発行することといたしました。

ステークホルダーの皆様への情報発信として、これからはCSR報告書を
毎年継続して発行してまいりますが、今回のこの報告書につきましては、
三井金属の社内および企業グループ内で、CSR取り組みの重要性についての
認識を徹底することと、これまでのCSR取り組みにおいて出来ていることと
出来ていないことの精査に重点を置いて作成いたしております。
この点を予めご承知おきいただき、お読みいただければ幸いです。

上記のような趣旨から、報告対象期間は、2015年度の実績を中心に取り上げておりますが、
それ以前の取り組みを含む項目もあります。
報告対象範囲につきましても、三井金属単体ベースを主にしながら、
環境活動および安全への取り組みについては、従来の環境報告書との比較を考慮し、
国内主要関係会社のデータも含めています。
項目それぞれにおいて、対象範囲は注記しております。

次回発行は、2017年7月を予定しております。
CSR報告書として求められております水準に適いますよう、
内容の充実に努めてまいりますが、そのためにもステークホルダーの皆様の
ご意見が欠かせません。
報告書の内容および三井金属グループのCSRの取り組みについて、
皆様のご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。

CSR報告書の発行のほか、三井金属ホームページでも
CSRに関します情報を都度発信してまいります。

［三井金属ホームページ］　http://www.mitsui-kinzoku.co.jp

私たちのできること、
私たちだからできることを。

私たち三井金属グループは、創業からは数えて140年を超える歴史があります。
この間、永きにわたり非鉄金属素材を中心にさまざまな技術と経験を蓄えてまいりました。
コーポレートスローガン「マテリアルの知恵を活かす」とは、そうした私たち独自の知恵を活かし、地球が与えてくれた恵みを活かして、社会的な課題解決へと役立つ製品や事業を創出することです。
貢献の場は日本国内にとどまりません、既に1960年代からグローバルに市場を求め、欧米やアジア地域を中心に40の拠点を展開しています。
また、地下資源の採掘を事業のルーツとする当社は、地球環境の保全を経営上の最重要課題のひとつと位置づけ、事業のあらゆる場面で環境保全に配慮した取り組み、CO_2の削減、省エネルギーも進めております。
次世代にも持続可能な社会を受け継いでいくために、製造業の原点でもある「ものづくり力」を活かし、私たちならではの貢献を果たしてまいりたいと考えております。
お客様にご評価していただける、ステークホルダーの皆様のご共感をいただける企業を目指して邁進してまいります。

代表取締役社長　西田 計治

Keiji Nishida

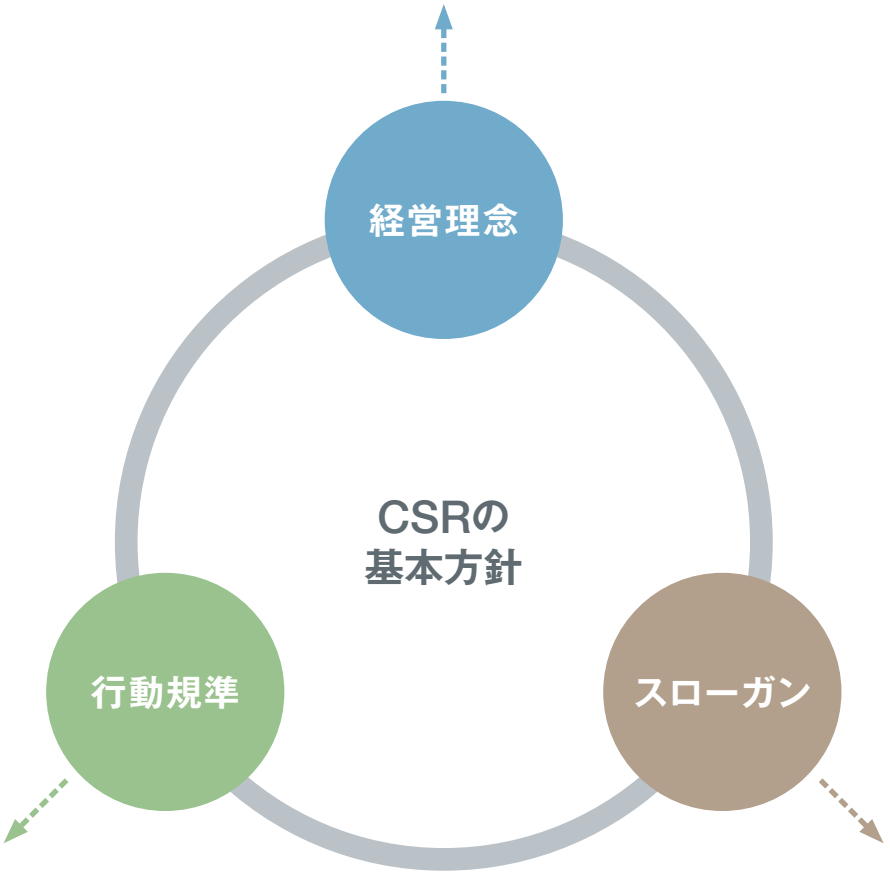
1957年 福岡県生まれ
1980年 当社入社
2008年 財務部長
2011年 取締役 兼 CFO（最高財務責任者）
2014年 代表取締役専務取締役
2016年 代表取締役社長

私たちのCSRの考え方

私たちのCSRの考え方は、これまで掲げてまいりました三井金属グループの「経営理念」を実践することそのものにほかなりません。「経営理念」「スローガン」「行動規準」をCSRの基本方針として認識を揃え、三井金属グループの役員と従業員、その一人ひとりがステークホルダーの皆様への責任を果たせるよう、CSRの取り組みをグループ全体で推進してまいります。

まさに私たち三井金属のミッション

1984（昭和59）年に制定・明文化いたしました。社会への貢献と永続的な成長を経営の根幹として謳い、30年以上になります。サステナビリティの視点を当時から有していた先達に感謝するとともに、その想いをしっかりと継承していきます。



経営理念を実践するための具体的な約束ごと

社会に対して果たしていくべき私たち自らの責任をそれぞれが自覚し、ステークホルダーの皆様とともに成長していくことができるように、日々の行動の中で、あらゆる企業活動の場面において遵守すべき基本的な事項を定めています。

「三井金属らしさ」を表象する言葉

私たちの生業はものづくりです。事業領域は非鉄金属素材を中心としてきました。そこで自分たちは何が得意なのか、その強みをどう活かすのか、どんな付加価値を生み出せるのか。それを常に考え、考え抜くことで、自分たちの「らしさ」を追求しています。

経営理念

創造と前進を旨とし
価値ある商品によって社会に貢献し
社業の永続的発展成長を期す

三井金属鉱業株式会社

【スローガン】

Corporate Slogan

マテリアルの知恵を活かす

行動規準

三井金属鉱業株式会社

1. 三井金属グループの社会的使命

価値ある商品により、社会に貢献します。

2. 三井金属グループの一員としての自覚と社会的責任

三井金属グループの一員としての自覚、ふさわしい品位と責任を常にもって行動し、全てのステークホルダーとコミュニケーションをはかり、積極的に社会貢献活動を進めます。

3. コンプライアンスの実践

国内外の法規、ルールおよび社内規則を遵守し、かつ社会良識に基づいて行動します。

4. 公正な事業活動

自由かつ公正な競争に基づく適正な営業活動を行ないます。
また、政治、行政、取引先などとの健全かつ透明な関係を維持し、不正な行為に関与しません。

5. 反社会的行為の排除

反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底します。

6. 積極的な情報開示と情報管理の徹底

企業情報を積極的かつ公正に開示するとともに、個人情報、顧客情報をはじめとする機密情報の保護と管理を徹底します。

7. 地球環境への貢献

環境問題に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

8. 働きやすい職場環境の確保

従業員の人権、人格、個性を尊重し、多様な人材が活躍できる、安全で働きやすい職場環境を確保します。

9. 経営幹部の率先垂範

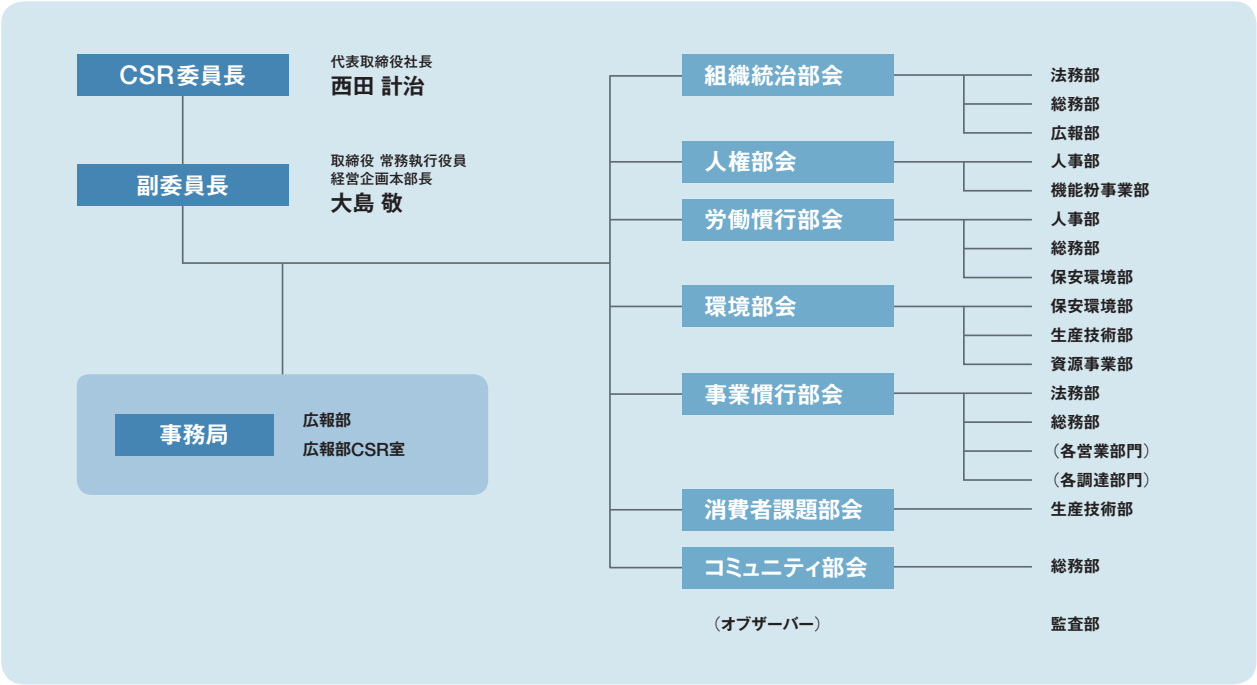
経営幹部は、この行動規準の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範のうえ、自ら責任をもって行動します。

［2016年7月　改訂第3版］

CSR取り組みの加速

2016年に、CSR活動推進の全社横断的機能を果たす専門部署としてCSR室を設置し、そして、社長を委員長とするCSR委員会を社内で立ち上げました。三井金属グループとしてのCSR取り組みは、まだ緒についたばかりですが、グループを挙げて取り組むべきCSR課題の特定、CSR情報の発信、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションに取り組んでいきます。

三井金属　CSR委員会



中核課題を基として

取り組み課題ごとに小委員会として部会を設けています。各部会の課題は、ISO26000にも規定されているCSRの7つの中核課題に基づくものです。まずは三井金属本社コーポレート部門の各部署からのメンバーが委員となっていますが、取り組みの段階を経るごとに、各事業部門、各事業拠点へと、委員組織の裾野を広げていくことを計画しています。

[組織統治部会]
コーポレートガバナンス、コンプライアンスの向上と、法務リスクへの対応や法務教育を務める法務部が中心となって、取り組みを進めています。人事部門とともに、人権に関するデューディリジェンスの仕組み作りなどもこれから検討していきます。企業統治における透明性と説明責任を確保していきます。

[環境部会]
環境管理と安全衛生を担っている保安環境部、全社の省エネルギーを推進しています生産技術部、海外鉱山の開発や国内休廃止鉱山の管理を行なっている資源事業部。それぞれからのメンバーが中心となって、持続可能な社会の実現のために、三井金属グループとしてできることを進めていきます。

[労働慣行部会]
人事部、総務部が中心となって、ワークライフバランス、ダイバーシティ、女性の活躍を推進する仕組み作りに取りかかっています。安全衛生を保つ保安環境部も一緒になって、安全で働きやすい職場を目指し、一人ひとりの能力が活かせる職場環境へと整えていきます。

CSR委員会の開催。（2016年7月）

三井金属グループ　CSR取り組みのロードマップ

グループ企業価値の向上

基本的CSRの実行
CSR経営の基盤強化

自らの強みを活かしたCSR
事業を通じた社会課題の解決

［2016年］
- CSR室の設置
- CSR基本方針の策定
- CSR委員会の立ち上げ
- CSR報告書の発行
- 7つの中核課題に基づく課題の洗い出し
- CSRのグループ内浸透

［2017年―］
- 既存エンゲージメントの整理
- ステークホルダーの皆様との対話
- 三井金属グループの重点項目の特定
- 目標の設定
- PDCAでの各取り組みの推進
- グループ内での取り組み拡大

まずはCSR経営の基盤強化

まだ大略的なイメージでしかありませんが、現在の中期経営計画の期間を目途としたCSR取り組みが上図のとおりです。
基本的なCSRの実行を速やかに進めるとともに、三井金属グループにとっての課題を特定し、ステークホルダーの皆様のご意見も反映させながら課題の優先付けも行なっていきます。
三井金属グループの企業価値向上を目指し、中長期のロードマップの作成にも取りかかります。